

プラズマエレクトロニクス分科会 国際会議支援ガイドライン

分科会の事業ではない国際会議関係が支援対象となる。

分科会事業 = I C R P については、分科会予算の中に事業費として組み込む。

1. プラズマエレクトロニクス分科会会員にとってメリットがあること。
(P E 分科会なら参加費安くなるなどもあり)
(表に出る違いが出ればわかりやすいのでは。伊藤先生)

例えば、

- ・セッションや招待講演者の選定において、分科会が意見できる。
- ・広く分科会の若手会員の育成に資するものである(スクールなど)。
(通常のインキュベーションホールや講習会では呼べないひとが
講師となるスクールの開催は、分科会の若手育成に資するものと言える)

2. 支援の必要性、支援によって期待される効果を述べてもらう。

3. 予算書・決算書において、支援金の使途を明確にする。

4. 支援額??? 50万円ぐらい?

例 2008年

IUPACプラズマ化学サマースクール

2. 計画の内容

近年のプラズマ分野は、従来の減圧下の半導体プロセス等に加え、大気圧・液体等の高密度媒質を対象とするところまで発展し、微量元素分析・環境応用と応用が進んでいます。その更なる発展を担う同分野の若手研究者・技術者を対象に、プラズマ物理・化学の基礎過程及び各種診断方法から最新の材料プロセス等の応用までをわかりやすく解説してもらいます。講師陣は、スクール直後の平成19年8月26日～31日に開催される第18回プラズマ化学国際シンポジウム(ISPC-18)の招待講演者、並びに基礎・応用分野において国際的な研究成果を上げている各国の一流の研究者となっています。従来は、教科書を読むことでしか接することの無かった講師陣の生の講義を提供することで、今後のプラズマエレクトロニクス分野を支える研究者・技術者の育成につなげるべく企画・運営されています。なお、講義は英語で行われます。

開催月日:平成19年8月23日～25日 開催場所:コープイン京都

参加予定人数:100名程度

共催など:国際純正・応用化学連合, 国際プラズマ科学会 出金希望時期:平成19年8月1日頃

例 2008年

IUPACプラズマ化学サマースクール

3 支援金の必要性

本スクールは参加費有料で運営していますが、若手研究者育成のために学生参加費を引き下げています。この引き下げに当たり、直後に控える国際会議に参加する講師については、宿泊費のみの支給で合意して頂き、別途財団にも支援申請するという努力をしています。しかし、テキスト等印刷に掛かる支出に充てる予算が十分ではありません。本スクールで学ぶ参加者に有意義なテキストを提供するために、本支援金を申請するものです。

その効果

左記補助金は、本スクールだけのために来日する講師の交通費、及び全講師への謝礼に充てられます。これにより、本支援金と合わせた総合効果として、本スクールを十分な設備をもつ会場で実施し、内容の充実したテキストの印刷し、参加者に配布することができるという効果があります。

例 2008年

IUPACプラズマ化学サマースクール

3 予算

収入

- ・ 研究活性化支援金200,000円
- ・ 参加費(懇親会費分除) 1,050,000円
- ・ 広告展示料 0円
- ・ 支部分科会支援金 200,000円
- ・ (財)立石科学技術振興財団(申請)
500,000円

収入合計 1,950,000円

支出

- ・ テキスト等印刷費 350,000円
- ・ 講師謝礼(含所得税) 390,000円
- ・ 旅費交通費 720,000円
- ・ 会議費 70,000円
- ・ 賃借料 300,000円
- ・ 通信費 50,000円
- ・ 雑費 70,000円

支出合計 1,950,000円

応物からは、両方合わせて400,000円

例 2008年

IUPACプラズマ化学サマースクール

2. 報告内容（どのような成果があったのかを中心に記載ください）

プラズマ物理・化学の基礎過程及び各種プラズマ診断方法から最新の材料プロセッシング等の応用までを、それぞれの分野において国際的な研究成果をあげている一流の講師陣にわかりやすく解説していただきました。17の国々から107名もの若手研究者（このうち学生が72名）が幅広い分野から参加しました。招聘した講師陣による教材資料（テキスト、スライド）はよく吟味されており、講義内容も充実していたため、質疑も極めて活発に行われ、当該分野の発展に寄与できたものと思います。また、**本スクールは、若手研究者が一流の講師陣と交流を深めるとともに、日本人学生が外国から参加した若手研究者・学生と交流する貴重な機会となったことも大変価値ある成果といえます。**